

## 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価の実施状況

### 1. これまでの実施状況

平成20年度において化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価が終了していない2物質（カルバリル及びペルフルオロオクタン酸）については平成21年度も文献検索を行い、新たに得られた報告も加えた信頼性評価を実施した。

平成18年度に化学物質環境実態調査が実施されたのべ112物質(群)のうち、平成8～18年度に実施した化学物質環境実態調査において検出された47物質群から、報告数が10件を超えた15物質を平成21年度において優先的に信頼性評価を行う物質とした。

カルバリル及びペルフルオロオクタン酸に関する報告の信頼性評価を「化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班会議（以下、作業班会議という。）」（第1回平成21年11月24日開催、第2回平成22年2月16日開催、非公開）において実施し、2物質とも「内分泌かく乱作用に関する試験対象物質となり得る物質」として、平成21年度第2回作用・影響評価検討部会（平成22年2月25日開催）に報告した。

### 2. 今後の進め方（案）

平成21年度に信頼性評価の対象とした15物質に関する報告については信頼性評価を実施中であり、平成22年3月に開催予定の第3回作業班会議において検討を行う予定である。また、平成21年度に実施した信頼性評価の結果については、平成22年度作用・影響評価検討部会において審議する予定としている。

なお、信頼性評価の進捗状況を勘案し、11名で構成されている「化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班」を平成22年度から13名の構成とする。